

くすりのしおり

内服剤

2022年10月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ハルシオン 0.25mg 錠

主成分：トリアゾラム (Triazolam)

剤形：淡青色の割線入りの錠剤、長径 7.9mm、短径 5.7mm、厚さ 2.0mm

シート記載など：Halcion 0.25mg、ハルシオン 0.25mg、UPJOHN 17、トリアゾラム、睡眠導入剤



この薬の作用と効果について

大脳辺縁系や視床下部の情動機構、大脳辺縁系賦活機構を抑制するベンゾジアゼピン系睡眠導入剤です。通常、不眠症の治療や麻酔前に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。急性閉塞隅角緑内障、重症筋無力症、睡眠随伴症状（夢遊症状など）として異常行動を発現したことがある。肺性心・肺気腫・気管支喘息および脳血管障害の急性期などで呼吸機能低下がある。心障害、脳に器質的障害がある。衰弱している。腎機能障害、肝障害またはその既往歴がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・不眠症：通常、成人は1回1錠（主成分として0.25mg）を就寝直前に服用しますが、高度な不眠症では1回2錠（0.5mg）を服用することがあります。治療を受ける疾患や年齢・症状により適宜増減されますが、高齢者には1回主成分として0.125～0.25mgまでとされています。
麻酔前投薬：手術前夜に、通常、成人は1回1錠（主成分として0.25mg）を就寝前に服用しますが、治療を受ける疾患や年齢・症状により、1回2錠（0.5mg）を服用することがあります。
本剤は1錠中に主成分0.25mgを含有します。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・不眠症の場合、服用後に十分な睡眠時間がとれない場合や睡眠途中で一時的に起床して仕事をすることがある場合には服用しないでください。
- ・飲み忘れた場合は、翌朝起きるまでにかなり時間があれば1回分を飲んでもかまいません。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。また、傾眠（刺激がないと眠ってしまう）、錯乱（注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない）、協調運動障害（思っているとおりの動作ができない、複雑な動作ができない）、不明瞭言語を生じ、昏睡（意識の消失、刺激に全く反応しない）にいたることがあります。悪性症候群（高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する）、呼吸抑制（呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる）、無呼吸、けいれん発作（顔や手足の筋肉がびくつく、一時的にぼーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える）があらわれるおそれがありますので、いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。なお、この薬を多量に飲むことにより、またこの薬とアルコールを多量に飲むことにより死亡にいたることがあります。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。この薬の量を急激に減らしたり、中止したりすることで、けいれん発作、せん妄、振戦、不眠、不安、幻覚、妄想などの離脱症状があらわれることがあります。

生活上の注意

- ・眠気、目がまわっている感じ、ふらふら感および物忘れなどがあらわれることがあります。
- ・この薬を続けて飲んでいて、薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ないなど、薬物依存の症状があらわれることがあるので、長期間の使用は避けることとされています。このような症状があらわれたら、医師に連絡してください。
- ・翌朝以後も、眠気、注意力・集中力・反射運動能力などが低下することがありますので、車の運転、危険な機械の操作などの作業は避けてください。
- ・授乳中の方は、この薬を使用している間は授乳を避けてください。
- ・飲酒により薬の作用が強くなる場合がありますので、飲酒はひかえてください。
- ・グレープフルーツジュースは、この薬の作用を強める場合がありますので、避けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、眠気、ふらつき、頭重、頭痛、めまい、協調運動失調、下痢、けん怠感などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・(中止により) けいれん発作、手足の震え、不安 [薬物依存、離脱症状]
- ・刺激興奮・錯乱・攻撃性、幻覚・妄想、感情や声が激しく高ぶった状態 [精神症状]
- ・呼吸が浅く速くなり、呼吸をしにくい、息苦しい [呼吸抑制]
- ・中途覚醒時の出来事をおぼえていない、もうろうとした状態、夢の内容が行動面に出てしまい起き上がって動き出す [一過性前向き健忘、もうろう状態、睡眠随伴症状(夢遊症状など)]
- ・全身けん怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [肝炎、肝機能障害、黄疸]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温(1~30℃)で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。